KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学

広報誌　No.83

蒼きいのち

特集　卒業生、奮闘中！

- 創立40周年記念講演会
- 本学から上海へ／上海から本学へ
- 看護科継灯式
- 地域探訪 くらしき＆おかやま⑥
- FD・SD研修会／SNS講演会
- 日本語に関する取り組み／川崎エコプロジェクト
  新任職員紹介／上海からニーハオ
- インフォメーション

学園祭模擬店「フットサル部」（撮影:天野 貴司）

特集

卒業生、奮闘中！

在学生の皆さん、「卒業後の自分」をイメージできますか？卒業が近づいてきた人も、まだまだと思っている人も、卒業後の世界を知っておくことで、「今の自分」を充実させることができます！

今回は、卒業して5年以内の先輩が奮闘している姿を紹介します。皆さんへの熱いメッセージを受け取ってください！

久保田 雄斗

Yuto Kubota

社会医療法人 光生病院

平成21年卒
放射線技術科　第30期生

診療放射線技師として技術を磨き自分を高める

学生時代の思い出

幼い頃から続けていた空手やバスケットボールで怪我（けが）をした際、お世話になった病院で診療放射線技師という職業を知り、川崎医療短期大学に進学を決めました。華やかな大学生活を思い描いて入学し、気の合う多くの同期生に出会えましたが、想像以上の授業とレポートの多さに当初は戸惑いがありました。しかし、数カ月も経てばそのリズムにも慣れ、定期テストは一夜漬け、同期の仲間たちといかに充実した毎日を送るかばかり考えていました。

そんな1年を過ごし、十分な知識が身に付かないまま始まった2年次からの長期病院実習では、苦労も多々ありました。しかし、教室では学ぶことのできない多くの知識を得ることができ、理想の技師像を思い描きながら取り組むことができました。と言っても、当時は大変という思いが先行し、週末の休みをいつも待ち遠しく感じていました。

国家試験の勉強の時にも、実習現場で同期生と共に苦労したことはしっかり記憶しており、実習の情景と関連付けることで勉強をスムーズに行うことができ、仲間と励ましあいながら無事に国家資格を得ることができました。

就職してから現在まで

現在はさまざまな検査に携わり、技師一人での夜間当直中の救急検査にも迅速に対応できています。就職して間もない頃は、ある程度の知識を備え、検査の下調べができていても、一人で任されることの不安や緊張から、状況によって変わるイレギュラーな撮影に上手く対応できないなど、理想の技師像から程遠い自分を痛感していました。そんな時、尊敬する上司の「診療放射線技師をやっていく上で始めの3年が勝負」という言葉に鼓舞され、自信をもって業務に臨むようになりました。

社会に出てからの月日は想像以上に早く、今年で5年目を迎えました。5年経っても未熟さを思い知らされることもたくさんあります。この仕事は大変奥深く、一般撮影では、テクニックを駆使して患者さんの負担なく診断能の高い画像を撮ること、MRIでは、まだ公表されていない鮮明な画像を撮影するテクニックを身に付けることなど、それぞれの検査において自分を高めるポイントがたくさんあります。患者さんたちから、「優しくしてもらえて検査に対する不安が和らいだ」などの感謝の言葉をいただき、やりがいを感じながら日々励んでいます。

在学生の皆さんに

在学生のほとんどが将来医療現場に進んでいくと思います。現場で大切なのは、個々の技量はもちろんですが、他者への思いやりや連携です。チーム医療では、いかに不安なく、スムーズに検査・治療を行えるかで、患者さんの病院への印象は大きく変わります。患者さんから検査の協力を仰ぐことができれば、自分のもつ技術を十分に発揮することができますし、そこから毎日の仕事のやりがいを感じることもできます。今は専門知識の修得で大変でしょうが、同じ職業を目指す仲間や支えてくれている周囲の人たちとの関わり合いから得るものは、人として成長する上で、とても大切な財産になると思います。プライベートも満喫し、仲間と励まし合いながら悔いの残らない学生生活を過ごし、将来の目標に向かって頑張ってほしいと願っています。

能登谷 麻衣

Mai Notoya

倉敷市中庄高齢者支援センター

平成21年卒
介護福祉科　第７期生

社会福祉士として地域で支援のパイプをつなぐ

学生時代の思い出

今こうして充実した仕事ができるのは、川崎医療短期大学での経験が大きいと感じます。学科では少人数クラスで仲間との繋(つな)がりも強く、先生も学生一人ひとりに親身に向き合ってくださいました。私は川崎医療福祉大学へ編入学をしましたが、事前に編入学試験の対策もしっかりとしてくださいました。

学科では、人と向き合うための基盤をしっかりと作ってくださいました。おかげで、編入学後の授業や演習の内容もスムーズに理解でき、就職後も広い視点で相手を見ることができるようになったと感じています。

先生方とは、卒業後もボランティア活動（茶ロールという拘縮予防用品の作成を学生に依頼）等で連携をとらせていただいており、本当に助かっています。卒業後も関係を持たせていただいていることを感謝しています。

就職してから現在まで

介護福祉士として就職してすぐの頃は、やっていけるだろうかと不安もありました。しかし、目の前の利用者さんと向き合う中で、短大で学んだ「利用者さんの尊厳や自己実現」について日々考え、その方の持たれている可能性を見つけることにやりがいを感じ、楽しく仕事ができるようになりました。

現在は、地域包括支援センターで社会福祉士として勤務しています。例えば、介護や支援が必要な方がおられた場合、地域の中で様々な技術や能力を持った方々のご協力をいただきながら、地域で支援する仕組みを構築しています。地域の皆様にパワーをいただきながら、地域づくりに関わっていくことが、今のやりがいとなっています。

社会福祉士として、地域の皆様のニーズや既存の社会資源を理解するとともに、皆様のニーズに応じた社会資源を開発し、点と点を線で結ぶパイプ役になれるようこれからも頑張りたいと思います。

在学生の皆さんに

私は勉強があまり得意ではありませんでしたが、学生時代に一つだけ意識していたことがあります。それは、「人との繋がりを大切にする」ということです。私は短大時代に手話部に所属しており、聴覚障がいの方や他大学の皆さんと交流する機会が多くありました。また、授業で見たDVDに感銘を受け脳性麻痺の方に会うために沖縄へ行ったり、施設見学へ頻繁に行き福祉職の方の話を聞かせていただいたりと、たくさんの繋がりを作ることや、刺激を受けることを意識していました。

そして実際に就職した今、その繋がりに助けられることが本当に多くあります。例えば、地域の聴覚障がいの方との接し方、イベントで急に行うことになったレクリエーション、多くの人の前でのスピーチなどで、以前施設見学で聞いた取り組みやレクリエーションをアレンジすることもあります。いざというときの引き出しが多くなったように思います。また、学生時代に出会った方々と頻繁に連絡をとり意見交換をすることで、刺激を受け、頑張ろうという気持ちにもなれます。

学生時代の経験は、どんなことでも未来の自分を助けてくれる材料になると思います。学生の間だからこそできる経験もたくさんありますから、皆さんも時間を有効活用して積極的に動いてみてください。

医療を学んだ保育士として子どもたちの発達を支える

片岡 美奈
Mina Kataoka

総社市立総社保育所

平成23年卒
医療保育科　第４期生

学生時代の思い出

医療保育科を卒業して早3年が経とうとしています。学生時代を振り返ると、出会えた仲間、恩師、経験のすべてが私の宝物だと感じます。3年間の学生生活の中で特に印象に残っていることは、宮城県のこども病院で病棟保育実習をさせていただいたことです。病気の子どもたちと触れ合う中で、命の尊さを感じ、すべての子どもは「あそびたい」「成長したい」と願っていることに気づきました。また、就職対策の勉強やゼミ活動、オペレッタの制作を通して、自分で考えて行動し、目標に向かって努力することの大切さを学び、保育士としての基礎を築くことができました。医療保育科ならではの貴重な経験を多くさせていただき、保育士になるという私の夢を応援してくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

就職してから現在まで

私は現在、総社保育所に勤務し、1歳児17名の担任をしています。3年目になり、初めて年下の先生と組んで、自分のクラスをつくるチャンスを与えられました。自分が主となりクラスを運営するということはとても難しく、試行錯誤の毎日です。日々の保育、行事、保護者対応など、悩むことも多く、先輩保育士の先生方にアドバイスをいただいたり、参考書を読んだりして、日々学びながら保育に取り組んでいます。1歳という年齢は自我が芽生える時期であり、月齢によって成長に大きな差がある時期でもあります。何をするにも「イヤ！」と言ったり、自分の思い通りにならないと寝転がって泣いたりする子どもも多く、難しい時期だと感じます。子どもたちのことを第一に考え、一人ひとりの発達や性格を把握し、個々に応じた支援をすることで、楽しく安心して生活できるクラスになるよう努力していきたいと思います。

この3年の間には、「何をしても上手くいかない」と保育について悩んだり、「どうして自分はこんなこともできないんだろう」と落ち込んだりすることも多くありました。しかし、保育所に行くと毎朝「かたせんせー」と言って抱きついてくれるかわいい子どもたちがいます。その子どもたちの成長を間近でみることができること、「先生方のおかげで、こんなことができるようになりました。ありがとうございます」と言ってくださる保護者の方々がいらっしゃることに支えられ、保育士という仕事は大変だけれど、とてもやりがいのある仕事だと感じることができるようになりました。まだまだ分からないことが多く、周りの先生方に助けられてばかりの日々ですが、これからさらに多くの経験をし、自分を磨き、保育士としても人としても成長し続けたいと思っています。

在学生の皆さんに

後輩の皆さん、今多くの人に支えられているということに感謝の気持ちをもち、学生の時にしかできない「学び」「遊び」をしっかりして学生生活を思い切り楽しんでください。そして自分なりの目標をもち、夢に向かって努力して頑張ってください。応援しています。

未来へ続く

創立40周年記念講演会を開催

本学の旅

講師／倉敷市長
伊東 香織 氏

本学は、昭和48年の開学以来、今年で40周年を迎えました。その記念行事として、9月28日に倉敷市長 伊東 香織 氏を講師にお招きし、「今までの40年、そして“みらい”へ　～川崎医療短期大学に期待すること～」と題して講演会を開催しました。会場の体育館には、川﨑 明徳 学園長をはじめ学園関係の方々、本学の教職員、学生約800名が参集し、盛会のうちに行われました。

講演に先だち山口学長から挨拶があり、俳人芭蕉の「奥の細道」の一節を引用して、誕生―変遷―集約―発展を遂げた「本学40年の旅」を述懐されました。

講演は、本学および川崎学園と倉敷市との40余年のかかわりを多方面から話され、大変示唆に富んだ内容でした。まずこの講演のきっかけとなった昨年の倉敷市主催・市民ふれあいトークでの本学学生との出会い、そこでの市長の投げかけに応じて本学学友会に安全パトロール隊が発足したことなどが紹介され、地域のために待つのではなく自ら踏み出すことの大切さを述べられました。続いて、創立構想から今日までの半世紀にわたる学園の歩みを、倉敷市政と時代背景をふまえて話されました。特に昭和30年代後半の岡山市との合併（100万都市構想）や水島コンビナート建設等のなかで、のちに交通や産業の結節点として重要な地域となるこの松島の地に学園を創設された先見性を指摘されました。また先の東日本大震災では、倉敷市は日本三景の一つ松島を擁する宮城県松島町にて大量ゴミの運搬支援を行いましたが、その選地理由は倉敷市に所縁（ゆかり）のある「松島」という地名が決め手だったというエピソードも紹介されました。ちなみにこれがきっかけとなり、最近、松島町と観光交流協定を結ばれたそうです。

そして最後に、本学学生に対して、「自分の目の前に現れてくる様々な課題や困難を抱えた人たちの未来を一緒に切り拓（ひら）いていくことが医療・福祉を学ぶ皆さんの使命」であり、そのためには、「傾聴力」と「伝える力」、そして自ら一歩を「踏み出す力」が求められると熱く語りかけられました。

講演では地域ボランティア活動など本学学生の活動を終始高く評価していただき、力強いメッセージを賜りましたことは、学生たちにとってこの上ない励ましの言葉でした。学生のみならず教職員にとっても、改めて本学のことを深く知ることができ、地域とともに歩む学園と本学の姿を想い描くまたとない良い機会となりました。

本学から上海へ

上海師生訪問団

第14期上海師生訪問団として、平成25年8月19日から4日間、看護科2年次生9名と教員2名の計11名が上海を訪問しました。

出発時は、期待や不安など様々な思いがありました。しかし、上海に到着すると、上海健康職業技術学院の先生方と生徒の皆さんが温かく迎えてくださり、滞在中はとても有意義な時間を過ごすことができました。

学院内を案内していただきましたが、その広い敷地と充実した設備に驚きました。実際の病院と同じ構造になっており、より臨床に近い実践的な演習ができると感じました。また、観光の時間には、博物館や豫園（よえん）などを巡り、中国の長い歴史や文化について学ぶこともできました。そして、ワンタン・水餃子作りにも挑戦し、先生や生徒の皆さんの指導のおかげで、包み方のコツをつかむことができました。

今回の体験を通じて、視野を広げることができ、今後もさらに看護の勉強を頑張りたいと実感しました。短期間でしたが、大変貴重な体験をすることができました。お世話になった皆様に深く感謝いたします。　（看護科2年　板谷 祐果）

上海から本学へ

上海健康職業技術学院師生訪問団の来学

平成25年9月13日と14日に、上海健康職業技術学院副院長の季 偉苹 氏をはじめ看護科・文理教学部などの先生6名と、看護を学んでいる高等部・中等部の学生6名が来学されました。上海から飛行機にて岡山へ12日夜に到着され、翌13日に本学を訪ねてくださいました。歓迎式を行ったのち、川崎学園の全体を理解していただくために、現代医学教育博物館、附属病院の臨床教育研修センターや病棟、ドクターヘリ、川崎医療福祉大学をご案内しました。

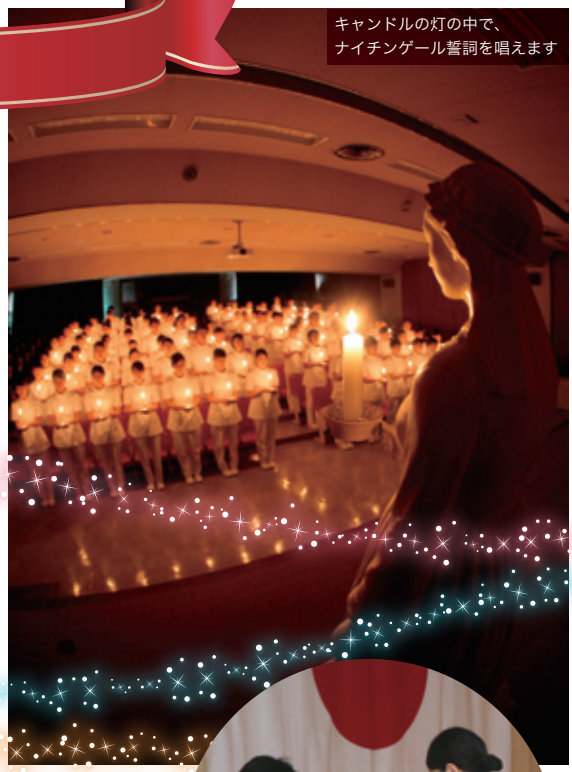
現代医学教育博物館や臨床教育研修センターでは、最新の医学を学生が自ら学べる標本や視聴覚教材の豊富さ、臨床技術をトレーニングするシミュレーション人形や機器の充実ぶりに驚かれるとともに、とても興味を示されていました。14日には、本学の各学科における教育の概要と実習設備等について説明し、本学の実習施設の充実ぶりを体感していただきました。

また、8月に上海健康職業技術学院を訪問した学生や学友会の学生も加わって開催した昼食会では、互いの国の医療を取り巻く情勢からファッションなどの話題まで話が広がり、楽しい時間となりました。午後には、倉敷美観地区を観光していただきました。短い時間の岡山滞在でしたが、互いに友好交流を深めることができました。　（学生部長　新見 明子）

看護の道へ進む誓いを新たにします

2013

看護科継灯式


キャンドルの灯の中で、ナイチンゲール誓詞を唱えます

看護の灯

本学の学生玄関の横に「看護の灯」の碑があります。これは平成18年に第二看護科が閉科した時に作られたものです。川崎医療短期大学看護科に引き継がれてきた「看護への想い」を形にして、看護の灯をこれからも受け継いでいくことを祈念して設立されました。

戴帽・授賞式から継灯式へ

看護師の象徴として長く着用されてきたナースキャップには、患者にぶつかるなど安全面での問題、感染管理上の問題などがありました。このため、平成25年4月から実習病院である川崎医科大学附属病院でナースキャップの着用が中止されました。これに伴い、本学看護科でもキャップの着用を廃止し、昨年まで行われていた戴帽・授章式を「看護の灯」を受け継ぐ継灯式と変更しました。

第1回継灯式

さわやかな秋晴れとなった11月2日、看護科2年次生127名の継灯式が、卒業した先輩に出席していただき、厳かに行われました。学生たちは、看護科主任により点灯されたナイチンゲールから灯を受け取り、山口 恒夫 学長はじめ教員、保護者が見守る中、ナイチンゲール誓詞を暗唱し、看護の道に進むことを誓いました。

式辞では、山口学長より正岡 子規の療養生活や生き方を例に、看護への心（精神）を学んでほしいという祝辞をいただきました。次に、現在、川崎医科大学附属病院で看護師として勤務されている先輩から、洗髪の事例を通して、「日々自分では当たり前に行っていることができないことはとても苦痛です。たとえば、洗髪ができない患者さんに、看護技術の方法を工夫して安全なケアを提供することは、気持ちよさを感じていただくとともに、療養生活の意欲向上や気分転換につながるとても大切なことです。これからの実習で、たくさんの貴重な体験を積み、教員や看護師の助けを借りて、良い学びとなるよう頑張ってほしい。」と激励の言葉をいただきました。また、実習病院である川崎医科大学附属病院の看護部、看護科同窓会支部、在校生から花束贈呈を受け、最後に、学生の代表が決意表明を述べて継灯式を終了しました。

学生代表が決意を表明します

臨地実習に向けて

臨地実習では、患者さんとの関わりや看護の実際を学ぶことができるため、看護師により近づけたようで充実感がもてると思います。その反面、緊張の中で身に付けたはずの技術がうまく行えなかったり裏付けとなる知識がうまくひき出せず現実の厳しさを感じることも多いと思います。看護師への道を歩み始めたばかりの学生たちの足元をナイチンゲールのキャンドルの灯が、照らしてくれることを願っています。

（看護科 講師　桝本 朋子）

地域探訪

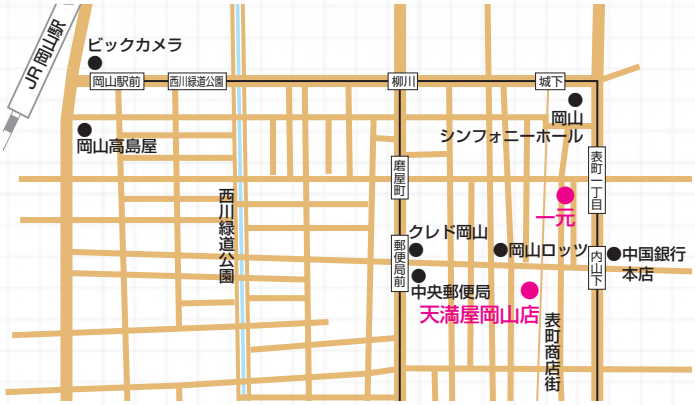
くらしき&おかやま

by 写真部

vol.6

岡山市街地のＢ級グルメ

今回は、岡山の隠れたB級グルメを取材してきました。
岡山のB級グルメといえば、ホルモンうどん、ひるぜん焼きそば、カキオコなどが有名ですが、岡山にはまだまだおいしいグルメがたくさんあります！ほんの一部ですが、写真部一押しのB級グルメを紹介します。



平成 25 年 10 月 20 日､写真部はB級グルメを求めて､いざ､岡山駅に！
駅前では「桃太郎像」が迎えてくれました。駅からは、東山行と清輝橋行の 2 本の路面電車が走っています。車体はカラフルで、いろいろなイラストが描かれています。路面電車に乗って到着したのは、天満屋デパートの地下にある「いんでいら」（岡山市北区表町 2 丁目）です。
「いんでいら」の一押しは、えびめしです。

えびめし

えびめしとは、ご飯に海老などの具を入れて油炒めしソース味に仕上げた料理です。一説によると、ルーツは東京といわれており、岡山に出店したところ、岡山市中心市街地で人気が出たそうです。こくのあるソースがやみつきになります。

次に向かったのは、表町アーケード街の東側の道沿いにある「一元」（岡山市北区表町 1 丁目）です。ここで有名なのは、とんかつラーメンです。とんかつラーメンとは、しょうゆラーメンにとんかつを豪快にのせたラーメンです。
ラーメンととんかつの組み合わせが意外と合います！ボリューム満点でとてもおいしかったです。

とんかつラーメン

えびめしもとんかつラーメンも岡山にいるからにはぜひ食べてみてください!!

西川緑道公園

岡山駅から天満屋までは交通量の多い大通りが通っていますが、途中には、市街地を南北に流れる西川があります。川沿いは散歩道になっていて、街なかというのに緑がいっぱい。
賑やかな通りや、さわやかな風が通る散歩道を歩きながらグルメなお店を探すのも楽しいと思います。

◎取材、撮影
ＲＴ２　成本・中山
ＭＴ２　小西・手銭・広江
ＭＴ１　内田・神原・松原
ＮＳ１　小坂・中條・土井

平成25年度 FD・SD 研修会の報告

FD研修会

本学では、教育の質向上を目指して、平成24年度から年間テーマを定めて計画的にFD研修会を開催しています。平成25年度は「到達目標を実現する授業構成」を統一テーマとし、医療保育科の中原 朋生 教授による4回の研修会を企画しました。7月の会では「授業目標論：到達目標と関連した学習内容づくり」、9月の会では「授業構成論：教授書のつくり方」について研修しました。どちらの研修においても、授業の組み立てについてより具体的にイメージできるよう、グループワークやペアワークが取り入れられ、熱心なディスカッションが交わされました。このあと「授業展開論：教授学習過程のあり方」「授業評価論：ルーブリックによる授業評価」についての研修会が予定されています。

大学教員は研究力の研鑽（さん）も求められていることから、10月3日（木）、臨床検査科主任の通山 薫 教授による科研費申請に向けての講演を企画しました。通山教授は、科研費審査委員としての視点も加えて、科研費申請のプロセスと成功のコツについて具体的に教示しました。質疑応答の際には、前向きな意見や質問が続出し、本学教員の研究マインドに火をつけたと確信しています。

SD研修会

「川崎医療短期大学の広報戦略」というタイトルで、5月29日（水）、事務部の大高 正憲 部長を講師に、本年度第1回SD研修会を開催しました。大高部長は、本学受験生の推移分析をもとに今後の広報戦略の方向性を示し、教職員が大学の特徴、特に「売り」について共通認識を持つことが第一であることを強調しました。また、実際の募集活動では、文字より絵や写真、一般的な表現より多少過激でも具体的な表現を使って訴えることなどを提案しました。

第2回SD研修会は、10月16日（水）、東進ハイスクール営業部の麻柄 真治 部長を講師に、「入学者の現状とその背景：教科書内容の変遷から考察する」というタイトルで開催しました。麻柄部長は、全国の高等学校をまわった豊富な経験と、東進ハイスクールの膨大なデータから、高校生の学力について分析し、現実に即した募集戦略や入学後の対応を提言しました。教職員にとってインパクトのある内容で、質問が相次ぎました。

本学では教育と研究の質向上のためにFD・SD活動を続けていますが、研修会には毎回50名前後の教職員が参加し、意識の高さがうかがわれます。FD・SD委員会では、それに応えて今後とも有意義な研修を企画していくつもりです。

（FD・SD委員会委員長　名木田 恵理子）

第2回FD研修会のグループディスカッション

科研費申請に向けてのFD研修会

第2回SD研修会

SNS講演会の報告

情報リスクマネジメント講演会の開催

主催：学生生活委員会
共催：個人情報保護管理委員会
学内情報ネットワーク管理運用委員会
FD・SD委員会

平成25年8月9日、10日の2回に分けて、全学生および教職員を対象に情報リスクマネジメント講演会を開催しました。株式会社キャリアプランニングの講師である上村 貴子氏に、昨今のSNS利用による情報漏えいや情報のリスク管理をわかりやすくご講演いただきました。まず、学生たちはセキュリティ自己チェックにより、自身の情報管理を見直しました。また、実際に訴訟に発展した事例をもとに、明らかな個人情報は記載されていなくても実習内容などの漏えいは問題であり、SNSなどに記載してはいけない情報について具体的に学びました。さらに、情報の発信元が特定されるプロセスについての話では、twitterにアップされた写真の車体に映り込んだ背景からでも、発信した本人の個人情報が平均5時間で特定されることなどを知り、SNSの恐さを実感しました。この講演会で、予期しない情報の拡散の危険性などSNS利用上の注意点を改めて認識し、情報管理の新たな知識を得ることができました。

（学生生活委員会委員長　新見 明子）

◇日本語に関する取り組み◇

学外のコンテストで高く評価された作品紹介

「日本語」と「文章表現」科目では、俳句や短歌などの創作から小論文やレポートなどの論理的な文章の作成まで、文章表現に関する様々な取り組みを行っています。学生の皆さんの志気を高め、積極的に日本語の勉強に取り組んでもらうために、これらの授業の成果を学外のコンテストなどに応募するようにしています。このたび、三つのコンテストにおいて、本学の学生の作品が高い評価を受けました。

倉敷市が募集した「人権川柳」では、医療介護福祉科2年の白石 亜弓さんが優秀賞を受賞しました。

今回が最後となった「第10回海外日系文芸祭」（海外日系新聞放送協会、海外日系人協会などの主催）の短歌部門（学生の部）では、看護科2年の渡代 莉子さんと同・黒田 菜々子さんが入選しました。

3人の受賞作品は下記の通りです。

また、「HAPPY NEWSキャンペーン」（一般社団法人日本新聞協会主催）の「切り抜き部門」において、医療保育科2年の三宅 敦子さんが選んだ新聞記事（2012年12月8日付け山陽新聞「木製鏡餅（きもち） 被災者に届け」）とそのコメントが1万5,935件の応募作の中から68件の一つに選ばれ、『心がぽかぽかするニュースHAPPY NEWS Vol.8』（文藝春秋発行）に掲載されました。

左から白石さん、渡代さん、黒田さん、三宅さん

握った手 力強さに 笑みがでる	医療介護福祉科	2年	白石 亜弓
君の声 昨日も聞けた 嬉しさに 私の心は 小春日和に	看護科	2年	渡代 莉子
前を行く 彼の背中の 後を追う いつか並んで 歩けるように	看護科	2年	黒田 菜々子

地球温暖化対策ワーキンググループだより NO.22

川崎エコプロジェクト

太陽光発電パネル設置

本学協助会の援助により、太陽光発電を利用したスマートフォン・携帯電話・ノートパソコンの充電装置を設置いたしました。6ｋＷの太陽光モジュールと蓄電池により、同時に30台が充電可能です。利用者は4桁の暗証番号を入力することにより、セキュリティーにも配慮されています。

また、余剰電力を利用して、32灯のLED照明を学生玄関・玄関脇階段等に設置しました。これらにより、省エネのみならず安全面にも寄与できるものと期待しています。

（大高 正憲）

太陽光発電

新任職員紹介

本学の仲間になった職員の方を紹介します。

谷口 澄緒　機械室　設備技術員

10月1日付の異動により、附属高校から医療短大でお世話になることになりました。皆様の学校生活が、より快適に過ごせるように設備の維持管理をしていきたいと思っています。不都合な点がありましたら、気軽にお申し出ください。どうぞよろしくお願いします。

上海からニーハオ！！

10月3日に上海から来日しました。半年間の研修期間の後、来年4月に看護科へ入学予定です。皆さん、よろしくお願いします。

◆張 怡（ちょう い）
(ZHANG YI)
上海市衛生学校 卒業

◆楊 始茗（よう しめい）
(YANG SHI MING)
上海市衛生学校 卒業

主要行事（1月～3月）

1月	4日　仕事始め 26日　ミニオープンキャンパス（医療介護福祉科・医療保育科） 医療保育科3年オペレッタ発表会 27日　看護科1年基礎看護学実習Ⅰ開始（～2/8）
2月	2日　一般入試前期(学生は校内立入禁止) 4日　医療保育科2年保育実習成果発表会 7日　一般入試前期合格発表 12日　医療介護福祉科2年卒業時共通試験 19日　医療介護福祉科2年卒業研究発表会 26日　在学生健康診断(～27)
3月	15日　卒業証書・学位記授与式 17日　一般入試後期(学生は校内立入禁止) 19日　一般入試後期合格発表 23日　ミニオープンキャンパス（医療介護福祉科・医療保育科）

放射線取扱主任者試験 合格者

【第1種】(放射線技術科3年1名)
尾上 健太

【第2種】
(放射線技術科3年1名、2年11名、1年1名)

永友　徹　　佐藤 里菜　　浜場 紀佳
江口 雅彦　　津尾 学史　　吉田 祐里
大西 英治　　鶴岡 美里　　渡邊 将大
小國 千穂　　永田 智子
合田 あゆみ　　成本 治美

[放射線取扱主任者とは]

放射線業務従事者や一般公衆等に対して放射線障害が起こらないように、放射性同位元素等の取り扱いについて監督を行います。一定数量以上の放射性同位元素等を使用・保管する施設では、この免状を取得した「放射線取扱主任者」を配置する必要があります。

平成26年度AO入試（前期・後期）結果

AO入試前期

試験日：8月24日(土)　合格発表：8月30日(金)

	看護科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	20	15	22	57
出願者数	63	9	47	119
出願倍率	3.2	0.6	2.1	2.1
合格者数	20	9	30	59

AO入試後期

試験日：10月27日(日)　合格発表：11月1日(金)

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	10	5	5	15	10	45
志願者数	33	29	53	3	13	131
志願倍率	3.3	5.8	10.6	0.2	1.3	2.9
合格者数	11	6	6	3	10	36

平成26年度一般入試（前期・後期）日程

試験区分	願書受付期間	試験日
一般前期	平成26年1月7日(火)～1月24日(金)【消印有効】	平成26年2月2日(日)
一般後期	平成26年2月24日(月)～3月8日(土)【消印有効】	平成26年3月17日(月)

国家試験日程

区分	試験日	合格発表
第103回　看護師国家試験	平成26年2月16日(日)	平成26年3月25日(火)
第60回　臨床検査技師国家試験	平成26年2月19日(水)	平成26年3月31日(月)
第66回　診療放射線技師国家試験	平成26年2月20日(木)	平成26年3月31日(月)

川崎医療短期大学広報誌
「若きいのち」(83号)
2013年12月発行

編集発行：広報誌編集委員会
天野 貴司（放射線技術科・委員長）
河邉 聡子（医療介護福祉科・副委員長）
名木田 恵理子（一般教養）
見尾 久美恵（一般教養）
重田 崇之（一般教養）
影本 妙子（看護科）
衣川 菜美（臨床検査科）
中井 靖（医療保育科）
桑田 俊明（庶務課）
小池 香里（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館
印　　刷：友野印刷株式会社
皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。
〒701-0194 倉敷市松島316
川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ　http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

編集後記

この原稿を執筆する2日前、テレビ番組「笑っていいとも！」が平成26年3月に終了するというニュースが駆け巡りました。36歳になる私にとっては、まだ学生だった頃の夏休みの平日昼、日曜日の朝といえば、この番組でした。社会人になり、平日は見る時間もなく、日曜日も遊びに出かけるか寝てしまうかになり、遠ざかっています。それでも、新聞のテレビ欄にこの文字がないと、「あ、土曜日か」と気づきます。

流行り廃りの入れ替わりが速く、新聞やテレビよりもSNS（ソーシャルネットワークサービス）が情報伝達の主役に取って代わりそうな世の中です。本学の学生も1年ごとに入れ替わり、学年ごとの雰囲気がこれまで以上に大きく変化している印象を受けます。私たち大学教職員にも、変化することが求められています。

しかしながら、そのような変化の時代だからこそ、ひとつのことを継続することも大切なのだと思います。本誌「若きいのち」は紙面であり続けています。また、写真撮影やレイアウトなど、ほとんどの作業をプロではない本誌編集委員がし続けています。その行間から、過去から現在へと変わらずに営まれている本学の姿を感じ取っていただけるようにと願っています。

（中井 靖）

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。